

平成26年度 第1回 新潟市若年者自立支援ネットワーク会議

新潟地域若者サポートステーション 事業説明資料

- 事業実施状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1ページ
- 平成26年度サテライト利用者実績・・・・・・・・・・ 2ページ
- 臨床心理士相談実績報告・・・・・・・・・・・・・・・・ 3～4ページ
- ジョブトレサポーター配置事業・・・・・・・・・・・・ 5ページ
- 開設7周年記念事業報告・・・・・・・・・・・・・・・・ 6ページ
- セミナー事業 卒業生ステップアップ事業・・・・・・・・ 7ページ
- 学校連携推進事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8ページ

新潟地域若者サポートステーション 事業実施状況

2014年4月～2015年3月

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	07年度	08年度	09年度	10年度	11年度	12年度	13年度	全合計	
来所のべ数	428	406	443	450	331	314	0	0	0	0	0	0	2372	3221	7090	8514	8756	7403	8123	8435	53914	
本人	413	403	442	433	328	312	0	0	0	0	0	0	2331	2774	6757	7895	8298	7037	7712	7874	50678	
保護者	15	3	1	17	3	2	0	0	0	0	0	0	41	340	317	409	346	330	311	317	2411	
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	107	16	210	112	36	100	246	581	
受付カード数(新規登録者数)	17	11	9	18	21	25							101	241	215	174	125	152	223	242	1473	
年度更新数	418												418								418	
相談件数	195	166	205	202	174	266	0	0	0	0	0	0	1208	1149	1512	1892	1953	2364	3449	2839	16366	
うち来所	182	159	185	189	155	242	0	0	0	0	0	0	1112	883	1238	1570	1600	2054	2848	2541	13846	
(内アウトリーチ)	4	2	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	9	119	121	189	134	134	105	67	878	
保護者													0							1	1	2
(内アウトリーチ)													0									
その他	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	2	3	0	5	5	2	2	3	22
(内アウトリーチ)													0							0	0	0
うち電話・メール	8	4	12	9	16	24	0	0	0	0	0	0	73	92	94	96	169	122	395	212	1253	
本人	1	1	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	8	49	48	37	37	46	96	17	338	
保護者	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4	1	0	8	4	3	0	21	
その他	-	-	3	5	10	9							27									27
step up相談																						
セミナー参加人数	75	76	92	101	86	84	0	0	0	0	0	0	514	1387	2258	2202	2676	2703	3555	3265	18560	
本人	75	76	92	85	86	84	0	0	0	0	0	0	498	1240	2106	2048	2537	2582	3292	2941	17244	
保護者	0	0	0	16	0	0	0	0	0	0	0	0	16	136	111	146	136	121	141	109	916	
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	27	8	3	0	122	87	258	
セミナー実施回数	10	8	10	12	9	9	0	0	0	0	0	0	58	145	220	254	287	262	294	336	1856	
学び直し支援	2	7	5	6	4	6	0	0	0	0	0	0	30	-	-	-	-	-	-	94	124	
参加延数	19	45	34	34	25	43	0	0	0	0	0	0	200	-	-	-	-	-	-	976	1176	
実施回数	-	-	1	2	1	2							6	-	-	-	-	-	-	-	-	6
参加人数	-	-	5	9	9	24							47	-	-	-	-	-	-	-	-	47
進路決定者数(a+b+c+d)	27	6	14	15	10	13	0	0	0	0	0	0	85	45	87	89	90	152	208	202	958	
うち就職者(a)	21	4	14	15	10	10	0	0	0	0	0	0	74	40	69	72	61	122	174	177	789	
正社員	2	2	2	2	0	1	0	0	0	0	0	0	9	6	13	6	9	26	21	28	118	
それ以外	19	2	12	13	10	9	0	0	0	0	0	0	65	34	56	66	52	96	153	149	671	
うち職業訓練(b)	4	2	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	9	1	12	10	20	25	23	21	121	
うち進学(c)	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	4	5	7	9	4	9	4	44	
高校	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	1	1	0	2	0	8	
大学・短大	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	4	2	2	0	11	
大学院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	
専門学校	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	3	2	2	5	4	20	
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	4	
うちその他(結婚等)(d)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	2	4	
リファーマー	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	30	55	170	553	547	704	14	2074	

平成26年度 サテライト利用者実績

「新津サテライト」利用者実績(秋葉・南区エリア)

第2・第4月曜日13時～15時50分

	相談 件数	延べ 人数	(内訳)			就労	福祉就労	進学	職業訓練
			本人	保護者	その他				
4月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月	6	6	6	0	0	1	0	0	0
8月	6	8	6	2	0	0	0	0	0
9月	5	6	5	1	0	1	0	0	0
10月	3	5	3	2	0	0	0	0	0
11月									
12月									
1月									
2月									
3月									
合計	20	25	20	5	0	2	0	0	0

「巻サテライト」利用者実績(西蒲区エリア)

第3木曜日10時30分～14時20分

	相談 件数	延べ 人数	(内訳)			就労	福祉就労	進学	職業訓練
			本人	保護者	その他				
4月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月	2	3	2	1	0	2	0	0	0
8月	1	1	1	0	0	0	0	0	0
9月	3	3	3	0	0	0	0	0	0
10月	3	3	3	0	0	0	0	0	0
11月									
12月									
1月									
2月									
3月									
合計	9	10	9	1	0	2	0	0	0

臨床心理士相談実績報告（別紙資料参照）

1 対象期間：平成26年4月～9月

2 報告内容

1) 相談人数：実人数：31名、延べ人数：136名

2) 報告内容

① 医療機関・専門機関へのリファー（支援継続者も含む）：9名

<リファー先>

- ・ 新潟県発達障がい者支援センター「RISE」
- ・ 新潟市発達障がい支援センター「JOIN」
- ・ 医療機関：発達障害専門クリニック、精神科病院、精神科クリニック
- ・ 就労移行支援事業所、地域活動支援センターⅢ型など（見学・体験）
 - * 心身の不調がある場合、まずは医療機関受診を勧めていく。
 - * 以前に精神科・心療内科等を受診しながらも改善していない場合、発達障がい者が隠れている場合がある。発達障がいの専門機関を紹介し、診断がつくと、障がい者就労に向けて動き始めることが少なくない。
 - * 医療機関・専門機関の受診に際しては、ご本人だけでなく保護者にも“丁寧な説明と同意”を行うようにしている。ご家族と一緒に、ご本人を支援していく体制を作ることが重要である。

② 就労決定者：一般就労・障がい者就労含む：9名

- ・ 医療機関にて診断を受け、手帳の申請を行い、障がい者就労に進んだ方（2名）
- ・ 医療機関にて診断を受けたが、自分の特性を理解し、特性に応じたアルバイトや仕事を探して就労した方（7名）
 - * 検査や診断によって、自分の特性や精神面への理解が深まると、就労への意欲が高まる傾向がある。
 - * どのような働き方をするかは、それぞれの人生観・価値観が大きいため、本人が納得できる形をサポートする姿勢で支援していく。

③ 面談継続中（中断を含む）：13名

- ・ 精神科・心療内科等の通院が終了、または中断した方の相談が多く、精神面での課題がある方が多い。
- ・ 発達障がいや精神疾患の可能性を伝えても、受診を拒否され、サポステでの就労準備を希望されるかたも少なくない。セミナーやジョブトレ、学び直しなどを受講し、苦手な面や自分の特徴を理解していくことで、再度受診のタイミングが生まれることがある。ご本人の意向を尊重しながら、多義的かつ長期的な支援の目をもつ必要性がある。

＜別紙資料＞ 臨床心理士実績報告

	年齢	性別	紹介元	主訴	支援経過	
① 医療機関・専門機関へのリファー	1	20代後半	男性	父親から	人と話をするのが苦手。面接が心配。	発達障害の可能性を伝え、新潟県発達障がい支援センターRISEを紹介。
	2	20代前半	女性	ハローワーク(以下HW)から	人と関わることに不安が強い。	発達障害の可能性を伝え、新潟市発達障がい者支援センターJOINを紹介。その後、医療機関で診断を受け、現地域活動支援センターⅢ型を体験利用中。
	3	20代前半	女性	HWから	不安感が強い。質問が出来ない。メモが取れない。	通院していたが、改善されず。発達障害の可能性を伝えJOINを紹介。他の医療機関にて診断を受ける。今後障がい者就労を目指す。
	4	30代半ば	男性	父親から	生活リズムが整わない。人間関係を継続できない。	発達障害の可能性を伝え、JOINから医療機関を受診し診断を受ける。今後、就労移行支援事業所等を検討する。
	5	30代半ば	男性	新聞から	コミュニケーションが苦手。人の輪に入れない。	精神疾患で通院していたが改善されず。発達障害の可能性と伝え、JOINにて相談後、他の医療機関を受診し診断を受ける。就労継続支援等を見学後、体験利用を待っている。
	6	10代後半	女性	新潟市立高校から	就職活動に不安が大きい。病気があり心配。	主治医へ情報提供書を渡していただき、病院にて心理検査を実施。精神疾患に加えて知的障害の診断を受ける。本人・母親と、今後の働き方を検討中。
	7	20代半ば	女性	知人から	精神的なものが体調にでやすい。	医療機関を受診中。検査後、連絡がある予定。
	8	20代後半	男性	JOINから	精神疾患なのか発達障害なのかはつきりさせたい。	精神疾患で通院していたが改善されず。詳しく検査するために他の医療機関を受診し、発達障害の診断を受ける。現在JOINにて相談中。
	9	20代前半	女性	HPから	将来のことが不安。食欲不振、気分の波が激しい。	医療機関受診。精神疾患の疑いがあるため、現在はまず服薬治療を優先。
② 就労決定者(一般・障がい者就労含む)	10	20代前半	女性	HWから	コミュニケーションが取れない。理解力が乏しい。	医療機関受診をすすめ、知的障害と発達障害の診断を受ける。しかし短期のアルバイトを自ら探し、就労決定。
	11	20代後半	男性	リーフレットから	対人ストレスから体調不良になりやすい。	精神疾患で通院していたが改善されず。発達障害の可能性を伝え、JOINにて相談、他の医療機関を受診。現在は若者支援センターオールにて活動しながら、単発のアルバイト継続中。
	12	20代前半	女性	新潟市立高校から	人がたくさんいるところが苦手。	医療機関を受診。知的障害の診断を受けるが、短時間の清掃のアルバイトを探し、就労決定。
	13	10代後半	男性	新潟市立高校から	人間関係に慣れたい。ジョブトレしたい。	オール中心の支援。オールより医療機関を紹介。知的障害の診断。就労移行支援事業所にリファー。
	14	30代後半	男性	HWから	コミュニケーションが苦手。人を避けてしまう。	精神疾患で通院していたが、治療は終了。職業訓練受講中。
	15	20代後半	男性	保健所から	病気がうまく付き合いつつながら就労を考えたい。	精神疾患で通院していたが治療は終了。得意分野を生かして就労決定。現在ステップアップセミナーを利用中。
	16	20代前半	男性	HWから	就職活動に不安がある。何が出来るのかわからない。	職歴・得意なことを整理し、HWに同行。得意分野を生かしアルバイト決定。ステップアップセミナー受講予定。
	17	20代後半	女性	HWから	やりたいことと自分の適性について相談したい。	精神面からくる体調不良もあったが、アルバイト決定。アルバイトと並行して、医療機関にて通院・カウンセリングを継続している。
	18	20代後半	男性	ジョブカフェから	就職活動への不安がある。	障がい者就労を継続中。フォローアップの面談実施。
③ サボステ面談支援継続中(もしくは中断)	19	30代後半	男性	HWから	人との意思疎通が難しい。	医療機関を勧めるも拒否。サボステ利用を中断。ボランティアを継続中。
	20	20代半ば	男性	HWから	声が小さく面接が心配。	精神疾患で通院していたが、治療は終了。面談・セミナー・ジョブトレを経て、アルバイトを検討中。
	21	30代前半	女性	HWから	人ごみに入ると心身の不調が起きやすい。	発達障害の可能性を伝えるが、拒否。受診も視野に入れながら、面談やセミナー、オールを利用中。現在ジョブトレが目標。
	22	30代前半	男性	新潟県求職者総合支援センター	何から始めていいかわからない。	就労意欲はあるものの、なかなか動けない。面談を継続しながらセミナーも受講中。
	23	20代後半	女性	HPから	不安が大きい。就職しても人間関係が上手くいか心配。	精神疾患で通院していたが、治療は終了。面談を通して不安が徐々に改善。キャリアコンサルタントと連携しながら、アルバイトに向けて活動中。
	24	10代後半	男性	新潟市教育委員会SSW(※)から	母:サボステを利用して就職してほしい。	面談・セミナー利用を勧めるも、面談予約後キャンセルとなる。
	25	10代後半	女性	サポート校から	人と話せない。集団に入れない。	面談のみしか利用できず。今後保護者を交えて、発達障害の可能性をお伝えする予定。
	26	20代半ば	男性	新聞から	対人恐怖症のなところがある。	医療機関での治療が中断。再受診を勧めるも拒否。面談を開始し、徐々にアルバイトに向けて意欲的になる。キャリアコンサルタントへ。
	27	20代後半	男性	ひきこもり支援センター	人が集まる場を避けてしまう。発表場面・面接場面が苦手。	面談・セミナーを利用しながら、徐々に自信をつけ、アルバイトの面接を受け始めている。
	28	20代半ば	男性	オールから	就労への一歩が踏み出せない。	ジョブトレ見学に行くが体調不良を起こしてしまう。自己理解を深めるための面談を継続中。
	29	20代前半	女性	親から	やりたいことがわからない。	医療機関に通院していたが終了。面談・セミナーを利用しながら、将来の方向性を検討中。
	30	10代後半	男性	家族から	やりたいことがわからない。	面談継続中。高校卒業資格に向けて進学を検討中。
	31	20代後半	女性	医療機関から	何から始めていいかわからない。	面談継続中。まずは体調不良の改善から始め、徐々に就労を目指す。

(※)SSW…ソーシャルスクールワーカー

ジョブトレサポーター配置事業

(1) 実績

- ① 4月～10月 実人数120人、延べ人数449人。
- ② 4月からの半年の間に農業ジョブトレ経験者が3名農業従事者として就労した。内訳は稲作農家、花卉農家、トマト・イチゴ栽培農家各1名。

(2) 新規ジョブトレ先の開拓

- ① 就労にはまだ時間を要する利用者でも可能な業務を行うことのできるジョブトレ先の開拓。具体的には各区の公立図書館の書架整理、大学研究室の書類整理、愛玩動物（ネコ）の世話など。
- ② 新潟市8区へのジョブトレ先の拡大。大手スーパーにジョブトレ先になって頂いた。“飛び込み営業”等も実施し現在40か所程度のジョブトレ先を確保。

(3) チョビトレの実施

ジョブトレをしたいのだけどまだ自信がないという利用者に対しては将来ジョブトレを行うことを前提に毎週一回時間を決めて事務所で軽作業を実施。チョビトレもジョブトレ前の正規の業務と位置づけ、ジョブトレサポーターが協力事業所の担当者役となり作業内容を明示し、就労に近いイメージですすすめている。チョビトレ内容としてはハローワークの書類の封筒詰め、市内各所の児童館で使用するおもちゃの製作など。なお、児童館の夏祭り等のイベントに出張チョビトレと称して手伝いに出かけ、コミュニケーションスキルの向上、社会性の涵養に役立っている。

(4) ジョブトレ紹介セミナーの実施

月に1度、ジョブトレの意義、ジョブトレ先の紹介を目的とした標記のセミナーを実施。ジョブトレサポーターが講師となるが、参加者が最も興味関心の強い内容は実際にジョブトレを行った経験者へのインタビューである。ジョブトレ前及びジョブトレ中の不安、ジョブトレで身についたことなど経験者の話はやはり説得力があるようである。多くの質問も発せられ、ジョブトレの周知と共にジョブトレへの不安解消に大いに役立っている。

(5) ジョブトレ in NIIGATA の実施

毎年、ジョブトレ経験者と協力事業所、ジョブトレ候補生が一堂に集まり、ジョブトレ経験者と事業所の体験（意見）発表を実施。毎年建設的な意見が多く述べられ、傾聴に値し、実施可能なものはジョブトレ事業に反映している。今年度は12月5日（金）午後2時から午後5時まで万代市民会館で行うべく、準備中。

(6) 新潟地域就労体験受入企業連絡会の開催

上述の協力事業所の担当者と関係機関にお集まりいただき、連絡会を開催。ジョブトレサポーターからジョブトレの実態をお話しし、出席者からはより良いジョブトレにするための建設的なご意見を頂いている。今年度は2～3回実施する予定。

新潟地域若者サポートステーション開設7周年記念事業報告
「Re-think サポステ ～あらためてサポステの意義を考える～」

1. 日 時 2014年8月8日(金) 13:30 ~ 16:30
2. 会 場 新潟市万代市民会館 6階大ホール
3. 目 的 若者を取り巻く状況や新潟地域若者サポートステーションのこれまでの取り組みを整理しつつ、今後の支援の在り方を考える機会とする。
4. 概 要 設立当初は居場所的・地域活動支援センター的な役割も担っていたが、新潟市若者支援センター「オール」や新潟市ひきこもり相談支援センターが開設される中で、サポートステーションの位置づけも、より「就労」に絞ったものになってきた。そうした状況を踏まえて、今後の若者支援の在り方がどうあるべきかを、基調講演にて日本の若年者雇用のそもそも論を整理した上で、パネルディスカッションにて現場で活動している方々からお話を伺った。

■基調講演：「若者支援問題 整理と展望」

- 講師：濱口桂一郎氏（独立行政法人労働政策研究・研修機構主席統括研究員）
- 内容：若者雇用問題とそれに対する政策の推移を概観し今後の若者支援の方向性を探る。

■パネルディスカッション テーマ：「あらためてサポステの意義を考える」

- パネリスト：濱口桂一郎氏
近昭子氏（若者支援センター「オール」）
蛭原勝氏（新潟パーソナル・サポートセンターTPS）
新美建治（新潟地域若者サポートステーション相談プロジェクトチームチーフ）
（コーディネーター：小椋真一（企業組合労協センター事業団北陸信越事業本部事務局長））
- 内容：サポステのこれまでの振り返りつつこれからの若者支援のあるべき姿について考える。

5. 参加者 一般参加者 94名（来賓等含む） 講師等 3名
関係者 18名 合計 115名

6. 実施効果

- 若者の現状を、労働政策や労働環境の観点から整理して理解することができた。
- 現在の新潟市における支援の体制（にいがた若者応援ネット）や、その中におけるサポートステーションの役割について理解していただくことができた。
- サポステ利用者の中で年少の利用者の中で貧困が顕著になりつつあること、卒業生の多くが非正規雇用であることなどを知っていただくことができた。

7. 反省点

- 基調講演の内容が固めであり、パワーポイントなどが必要であった。
- 時間配分のバランスが悪く、パネルディスカッションの時間が短くなってしまった。

学校連携推進事業

(1) 今年度の支援対象者を「中退者」に限定

厚生労働省は今年度の対象者を「中退者」に限定

それにより従来から対応してきた方々は例外としながらも、現在では新規の在学生の支援は行えずにおります。

(2) 市立高校（モデル校）でのフリー相談事業にサポステ臨床心理士が参加

一方、学校連携推進事業で特筆すべきは、サポステのメイン相談事業に効果を発揮している臨床心理士が、新潟市の新潟市立明鏡高等学校様をモデル校として、校内フリー相談事業に訪問相談員として深く関与させていただいていることです。

(3) 3 支援機関が連携しながら得意分野を分掌

当校での相談支援は、新潟市若者支援センター「オール」と新潟市ひきこもり相談支援センター「ひきセン」、そして弊所の3支援機関が合同で組織した「にいがた若者自立応援ネット（事務局：オール）」で対応しています。「社会参加」はひきセン、「社会的自立」はオール、「職業的自立」はサポステと、それぞれの支援機関が連携しながら得意とする分野を担当支援しています。

具体的な動きとしては、毎月1回オールの相談員とサポステの臨床心理士が学校に訪問します。相談の内容も不登校・特性や障害と手帳取得から家庭の問題（家族間や経済的な問題）や就職・進路等多岐にわたります。また、訪問時に対応した内容をネットの会議（毎月1回開催）に持ち帰り、更なる検討を加えます。

(4) 新潟市若者支援協議会による全面サポート体制（広く厚い面の支援）

さらに、当ネットは「子ども・若者育成支援推進法」に基づいて発足した「新潟市若者支援協議会」の1専門部会にもあたり、相談の内容が緊急性をほらみ複雑かつ高度な課題を含むなど、解決に向けて更に専門的な機関との連携が必要となる場合には、ネットの会議から即座に協議会に上程されその対応がマクロ的に検討されるなど、広く厚い面の支援が可能となり、生徒・保護者・そして学校からより一層の信頼を得、今後も期待をされてゆく事業です。

[平成 25 年度実績]

・相談対象者：31 名

[平成 26 年度 4 月～10 月現在]

・相談対象者：15 名